2．株式会社

　債権―債権の値上がり益でなく利息を受け取る。安全性を重んじる。

　株式―値上がり益を目的。配当金の支払いのない会社でも株式を購入したい人は多い。

　　　　株式を買うということは、会社の共同所有者になる。

　会社―営利が目的で社団法人と定義される。利益を分配することも含まれる。

　　　　社団…団体（1人の人間では限界がある）

　　　　法人…法律上認められた人

　例

1. ある大学のK教授は自動車の電池の開発。（個人事業）

―誰からも資金援助はなし、自分の資金と電池を売っている。

―その収入で自宅を改造して研究所設立。

―収入は教授に所属、

1. K教授は大学を退職し、2人の準教授を引き抜き、研究所を運営共有。

―研究が成功し、上場を建てる。

―必要資金は9,000万円。

　　銀行は1人3,000万円まで貸す。

　　3人の集団と銀行との契約。

1. 合同会社にする

―借金がでた場合の返済は3人の連帯。

―共同所有者は無限責任社員となる。

1. 工場建設に、後9,000万円が必要。

―K教授夫人が資産家で夫人から資金の提供を受ける。

1. 合資会社になる。

　　3人―無限責任

　　夫人―有限責任

1. 有限会社にする。

―全員が有限責任を負う制度。

―銀行が貸付金を回収できるのは教授、夫人、準教授確認が出資した金額が上限。

Note

　有限会社の制度は2006年に廃止。株式会社の制度が柔軟になった為。

1. 電池の開発順調。大手のT自動車が電池の開発を依頼。（株式会社）

―T自動車から研究費をもらうのではなく、研究所の共同所有者になってもらう形で研究費を出してもらう。

―T自動車は9,000万円を研究所に入れる。また、9,000万円分の証書を研究所からもらう。

**株式**

株式：共同所有者の証が株式である

　K教授

　準教授2人　　　5人

　夫人

　T自動車

共同所有者の証「株式」を作成し、譲渡できることが必要。

　例

　　教授は研究設備400万円、現金500万円で出資して研究所設立。

　　900万円　　教授　　　　　　　―1人当たり300万円の出資

　　　　　　　　2人の準教授

　　夫人は9,000万円、T自動車も9,000万円出資。最少出資額を300万円とする。

　　　　教授、准教授―1枚ずつの株式を保有

　　　　夫人―30枚

　　　　T自動車―30枚

3．利子率と現在価値

　今、ｘ円を年利ｒで銀行に預ける。

　　1年後：x(1+r)

　　ｔ年後：x(1+x)t

利子が半年複利で計算されると

　　ｔ年後：x(1+r)2t

連続的にｎ回繰り返されるとすると

　　x(1+r/n)nt

ｒ/ｎ＝１/ｍとおくと

　　x(1+1/m)mrt = x[(1+1/m)m]rt →　xert

(m→∞のとき)

　例

　　$1,000を年利1%で預ける

　　5年後：

　　　Z = xert = 1,000(2.78)0.05 = 1,05130ドル

　　現在価値：

　　　x = Ze-rt = 1,000